

病害虫防除技術情報第9号

平成18年 9月27日
三重県病害虫防除所

小麦に黒節病が見つかりました

1 発生の経過

平成18年5月1日、病害虫防除所の巡回調査において、小麦に穂首節部の黒変症状が目立つ圃場が散見されました。科学技術振興センター農業研究部において、細菌検査キット“API20NE”を使用した診断の結果、コムギ黒節病 *Pseudomonas syringae* pv. *japonica* と同定されました。この病気は全国的に見られていますが、本県ではこれまで問題にされていませんでした。今後、続けて発生するおそれがあります。

2 病徴と被害

大麦と小麦の葉、葉鞘、節、稈、穂に発生します。節の場合は黒変します。生育初期に侵されると生育が抑制され、節や節間が腐り、枯死することがあります。

3 発生生態

細菌病で、被害わらや種子が感染源なので、麦類を連作すると増加します。暖冬傾向で推移した後、寒波に遭遇すると発病が多くなると言われています。また、風通しの悪い圃場や排水の悪い圃場では発生が多いとされます。

県内の18年産小麦では、品種“農林61号”、“にしのかおり”、“あやひかり”で発病が見られ、特に“あやひかり”では発生が目立ちました。

4 対策

現在、登録農薬はありませんので、発生圃場での連作は避け、排水対策を励行してください。